

# 行政視察等報告書

平成27年3月11日

長野市議会議長 高野正晴様

報告者氏名(代表)

農林業振興対策特別委員会

委員長 岡田 莊 史

この度、行政視察をいたしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

## 記

- 1 視察区分 農林業振興対策特別委員会行政視察
- 2 視察者氏名 岡田 莊史、山本 晴信、西沢 利一、小泉 栄正、池田 清、  
望月 義寿、手塚 秀樹、田中 清隆、原田 誠之
- 3 随行者 書記 中條 努
- 4 視察期間 平成27年1月20日(火)～平成27年1月22日(木)
- 5 視察先及び視察事項

視 察 先	視察日時	視 察 事 項
岐阜県 大垣市	1月20日(火) 午後1時	(1) 大垣市森林づくりアクションプランについて
広島県 福山市	1月21日(水) 午前9時30分	(1) 福山市農業振興ビジョンについて
愛知県 豊田市	1月22日(木) 午前9時	(1) 豊田市森づくり条例について (2) 豊田市 100年の森づくり構想について (3) 第2次豊田市森づくり基本計画について (4) 第3次豊田市地産地食推進計画について (5) 現地視察：農ライフ創生センター

6 調査概要

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1 / 20 (火)	大垣市	<p><b>【大垣市森林づくりアクションプランについて】</b>  <b>[ 概要 ]</b>            大垣市の林業については、平成18年の合併により約10,881ha（森林率 52.7%）の山林を所有したことから、林業対策がクローズアップされてきた。</p> <p>1 「大垣市森林づくりアクションプラン」(平成24年策定)等について            プランは、“豊かな森林を未来に引き継ぐ”ことを目的として策定した。計画では、森林整備計画に基づき具体的な行動計画を策定し、市民、森林所有者、事業者及び行政の役割を明確にし、実効性を確保するとしている。計画期間は、平成21年から31年までの10年間で、5年ごとに見直すとしている。            なお、計画の策定及び評価・検証を行うために、委員11名により構成される「大垣市森林管理委員会」を設置している。また、プランの基本目標として次に示す4つの目標を設定し、各種事業を推進している。</p> <p>2 基本目標を達成するための具体的取組（事業）            大垣市では、大垣市森林づくりアクションプランを実現するために、4つの基本目標を設定している。            4つの目標及び事業内容については、以下のとおり</p> <p>(1) 健康で豊かな森林づくり            治山事業や有害鳥獣対策の推進等</p> <p>(2) 木材の循環利用を進める森林づくり            木質ペレット利用促進事業や各種林道整備事業等</p> <p>(3) 里山再生による身近な森林づくり            里山再生推進事業等</p> <p>(4) 人材育成と市民との協働による森林づくり            林業体験交流事業や林業グループ活動育成支援事業等</p> <p>上記のうち、            木質バイオマスについて            現在、市直営で木質ペレットを製造している。製造量は、年間25トン程度である。製造したペレットは、市の公共施設に無償提供されている他、一般には10キログラム当り400円で販売している。また、ペレットストーブやボイラーの普及については、遅れ気味であるが、今後更に普及拡大を図っていくとしている。</p> <p>木の駅プロジェクトについて            メンバー30人により構成されるNPOによる活動である。これは山林から搬出した木材を1立方メートル当り3,000円程度で販売しており、年間400トン程度を扱っている。しかしながら、木材の輸入等の要因により価格変動が大きい状況である。</p> <p>その他            森林環境整備事業については適切な事業メニューがない。            森林体験事業については、事故の原因もあり、思うように進んでいない状況である。            野生鳥獣対策については、個体数調整が必要である。</p>

なお、平成25年度の有害鳥獣捕獲実績は、総数で 494頭であり、ニホンジカ 361頭、イノシシ 111頭他となっているが、経費が多額となり流通は難しい状況である。

市予算： 5,000千円、補助金： 5,000円/頭

ジビエ販売価格：2,000円/kg

### 3 大垣市森林管理委員会の概要、役割、活動内容について

#### (1) 概要

森林管理委員会は、「大垣市森林管理委員会設置要綱」に基づき設置されている。委員は、学識経験者を初めとして11人で構成されている。なお、このうち2名は公募市民としており、また、会議の開催回数は毎年2～3回程度となっている。さらに、オブザーバーとして西濃農林事務所担当者が参加し、事務局は市経済部（農林課）が担当している。

#### (2) 役割

大垣市森林管理委員会は、アクションプラン策定のため、現状と課題の抽出、課題解決のための施策提案を行い、併せて実施状況について評価・検証を行うこととしている。

#### (3) 活動内容

毎年2～3回程度、委員会を開催し、課題及び施策の検討、各種事業の検討、先進事例等の視察研修等を行っている。なお、委員会活動から得られた実績等については、県の「市町村森林管理委員会の設置に係る取組計画・実績報告書」に反映される。

#### [ 考察 ]

大垣市森林づくりアクションプランは、旧上石津町との合併に伴い検討、策定されたものである。アクションプランの実施状況については、森林管理委員会による検討を踏まえ、県等に公表されることについては、評価できる。

また、アクションプランに基づく基本目標が明示されており、個々の目標ごとに実施事業が設定され、導入が検討されている点については、見習うべきところがあると感じる。

しかしながら、各事業の実施状況については、様々な要因により必ずしも積極的に推進されているとは言えず、大垣市に適した各種事業の積極的な推進が求められると感じた。

なお、大垣市森林管理委員会の開催頻度は、毎年2～3回程度となっているが、林業を積極的に推進するためには、必要に応じて、随時開催していくべきと感じた。

<p>1 / 21 (水)</p>	<p>福山市</p>	<p><b>【福山市農業振興ビジョンについて】</b>  <b>[概要]</b>  1 「福山市農業振興ビジョン」策定に当たっての検討体制、概要、施策体系、数値目標等について  (1) 策定の経過・体制  庁内関係課で構成される「農業振興ビジョン検討委員会」で原案を作成し、「農業振興ビジョン策定委員会」の意見、提言を踏まえ、アンケート調査、パブリックコメントを踏まえ実効性のある計画づくりを行った。  (2) 概要  福山市農業振興ビジョンは、第四次福山市総合計画を踏まえ、地域特性を活かした農業施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成23年度を初年度とし、平成32年度を目標年次としている。また、福山市農業の将来像を、“協働で守り育てる、豊かさと賑わいに満ち、活力ある福山農業”を実現するとしている。  (3) 施策体系  ビジョンに示す福山市農業の将来像を実現するために3つの基本目標と施策、数値目標を設定している。  ・基本目標：地産地消の推進（3項目6施策）  （数値目標：環境保全型農業の取組数ほか3項目）  ・基本目標：生産力の強化（4項目11施策）  （数値目標：農作業受託農家数ほか4項目）  ・基本目標：農地の保全（4項目8施策）  （数値目標：ストックマネジメント事業地区数ほか3項目）  (4) 各主体の役割  ビジョンの推進に当たっては、以下に示す6つの主体の役割を明確にしている。  農業者・多様な担い手  ：安心・安全な農産物の供給、農地等の維持・保全、事業者との連携  市民・消費者団体  ：理解、消費、維持・保全活動への参加等を通じた支援  農業関係団体  ：技術指導や経営の支援、農業者と市民の相互理解の増進  事業者・商工団体  ：加工、流通、サービスの取組を通じて地産地消に寄与  農業委員会  ：農地の有効活用の推進  福山市  ：施策や事業を着実に推進  (5) 推進体制  福山市農業振興会議において、施策や事業を推進。庁内関係部署の連携により総合的な取組と体制の強化  (6) 進行管理  福山市農業振興会議において、進行管理を行う。</p>
-----------------------	------------	--

		<p>2 地産地消の推進について  地産地消の推進に当たって、「福山市地産地消推進協議会」を設立している。協議会は、地産地消を全市的に推進するため、生産、流通、消費などの関係団体と行政を合わせた11団体で構成されている。併せて、地産地消を機能的に展開するため市内関係部署11課長で構成される「福山市地産地消推進運動プロジェクト会議」を開催し、検討を踏まえた施策の推進を行っている。</p> <p>施策内容としては、  (1) 学校・保育所給食地産地消推進ネットワーク  (2) ふくやまブランド農産物（ふくやまSUN）の利用  (3) 農業者による規格外農産物の学校給食への直接納入などの施策を展開している。</p> <p>3 生産力の強化について  多様な担い手の育成を図るため、次の施策を展開している。  (1) 新規就農者の育成  (2) 農業女性の育成（ふくやま農業女性の会）  (3) 集落法人の設立・運営支援  また、農商工連携、農業六次産業化の推進については、以下の施策を展開している。  国の総合化事業計画認定（4法人）  市内農産物を活用した開発商品</p> <p>4 農地の保全について  耕作放棄地対策を推進するため、耕作放棄地再生活用モデル事業を推進し、地域ぐるみで取り組む耕作放棄地の再生・活用に係る経費の実費を5年間継続して支給している。  また、農地の流動化を促進するため、農地情報提供事業を推進している。農地情報提供事業の事業主体は、福山市農業経営改善支援センター推進協議会である。</p> <p>5 里山里地保全事業（里山里地協力隊）の概要について  里山里地の持つ良好な環境や生物多様性への寄与等の機能が低下していることから、大学、市民等多様な者の協働により再生・保全活動を支援し、農山村地域の活性化や水と緑の再生を図る。  このような事業の目的を実現するために、以下に示す5事業を実施している。  (1) 里山里地モデル地域支援事業（3地域で実施）  限度額：1,800千円、補助率：10/10  (2) リーダー研修受講料補助  予算額：80千円  (3) 若者交流促進等事業費補助  里山コンの実施、協力隊教養講座の実施  (4) 里山里地協力隊支援事業  協力隊員は、市民、NPO、企業、大学、各種団体等から募集。現在200人が登録  (5) 里山里地保全協定事業  企業と地域団体、市と地域団体の協働、協定の締結による里山里地の保全活動を促進</p>
--	--	--

		<p><b>【考察】</b></p> <p>1 福山市農業振興ビジョン ビジョンは、市関係部署が中心になって策定し、基本目標を明確にするとともに、それぞれ数値目標を設定している。 さらに、農業を取り巻く多様な者の役割を明示しており、施策の実施状況については、福山市農業振興会議において、進行管理を行うとしている。 長野市では、農業振興条例の策定については、議員提案により行われているが、行政が主体となっている福山市との違いとなっている。 しかしながら、農業を取り巻く多様な者の役割等を明確にしている点については、本市農業振興条例と同様の性格を有していると評価できる。 今後の成果を注視していきたい。</p> <p>2 地産地消について 地産地消は、農業関連11団体により構成される福山市地産地消推進協議会を中心に推進されている。施策では、地元農産物の使用拡大に併せて、ふくやまブランド農産物（ふくやまSUN）の拡大も図っている。 長野市においても同様の課題を有しており、今後の推移に注視していきたい。</p> <p>3 里山里地について 里山里地保全のために多様な者が参画する活動であり、5つの事業が実施されている。 本市においても、中山間地域の遊休荒廃地対策等の観点から学ぶべき手法であると感じた。</p>
--	--	--

<p>1 / 22 (木)</p>	<p>豊田市</p>	<p><b>【豊田市森づくり条例について】</b>  <b>【豊田市 100年の森づくり構想について】</b>  <b>【第2次豊田市森づくり基本計画について】</b>  <b>[概要]</b></p> <p>豊田市では、平成17年の合併に伴い「森林都市」となったことを踏まえ、平成19年に「豊田市森づくり条例」及び「豊田市100年の森づくり構想」を策定している。さらに、施策の見直し等の要因により、平成25年には「第2次豊田市森づくり基本計画」を策定している。</p> <p>1 豊田市森づくり条例について</p> <p>(1) 森づくり条例制定の経緯及び概要</p> <p>森づくり条例は、豊かな森を次世代に継承するため、以下の4つの理念を提示している。</p> <p>理念1：公益的機能の発揮  理念2：木材の循環利用  理念3：地域づくりと一体となった森づくり  理念4：人材育成と共働による森づくり</p> <p>また、条例の構成は、前文に加えて24条から構成されており、条例の内容（概要）は、以下のとおりである。</p> <p>第1章 総則（第1～8条）  第2章 基本的施策（第9～16条）  第3章 森づくり構想及び森づくり基本計画（第17～19条）  第4章 推進組織（第20・21条）  第5章 雑則（第22～24条）</p> <p>(2) 森づくり委員会及び森づくり会議の役割</p> <p>森づくり委員会は、条例第20条に基づいて設置されている。委員会は、年3回程度開催されており、市が行う森づくりに関する事業についての協議・調査・提言を行うとともに、基本計画の進捗状況について評価を行っている。</p> <p>また、森づくり会議は、山林の計画的団地化を図り、地域の森林の全てを健全にすることを目的として設置されている。放置人工林をどんどん取り込んでいくのが特徴である。</p> <p>2 豊田市 100年の森づくり構想について</p> <p>森づくり条例に定める基本計画を実現するため、森づくりの方向性と今後20年間の基本的施策を示したものである。</p> <p>森林整備に当たっては、人工林づくりを推進するとともに、天然林は、植生遷移を基本に保全・活用していくとしている。</p> <p>3 第2次豊田市森づくり基本計画について</p> <p>(1) 基本計画の策定の経緯、位置付けについて</p> <p>構想の目標である平成39年度末までに過密人工林を一掃するために策定されている。目標では健全化する人工林の割合を定めており、平成29年度末までに68%、平成34年度末までに80%とするとしている。</p> <p>また、基本計画では、団地化する森林面積を21,000ha、針広混交林を4,000haとするとしている。</p>
-----------------------	------------	---

(2) 重点プロジェクトについて

基本計画の目標を達成するため、基本的施策と6つの重大プロジェクトを定め、10年間で18,000haの間伐を実施するとしている。

この目標を実現するため、目標値を設定し、目標達成のための事業を展開している。

目標1：間伐推進プロジェクト

目標2：団地化促進プロジェクト

目標3：林業労働力確保プロジェクト

目標4：林業用路網整備プロジェクト

目標5：素材生産の効率化・低コスト化プロジェクト

目標6：木材利用促進プロジェクト

(3) 共働による森づくりの主な施策

団地化の促進に当たっては、森づくり会議を組織し、地域自らが森林管理や整備の方針を定めている。併せて、森林組合、市、県と連携し計画を推進している。また、計画が策定された団地については、補助金の割増し等を行っている。

なお、平成26年3月現在、森づくり会議82団体、森づくり団地 289団地 5,668haとなっている。

**[ 考察 ]**

豊田市では、平成17年の合併に伴い「森林都市」となったことから森づくり条例を制定し、併せて構想及び基本計画を策定している。これによれば、人工林による森づくりに併せて、森の団地化を推進するとしている。また、これらを実現するために、6つのプロジェクト事業を立ち上げ、推進している。

100年の森づくり構想が今後どのように推移していくか注視したい。

なお、本市議会では、農林業振興対策特別委員会において、平成27年度の検討課題としており、今後の参考としていきたいと考えている。

**【第3次豊田市地産地食推進計画について】**

豊田市では、農業経営を安定させ、持続ある農業を目指すため地産地食推進計画を策定している。推進計画では、生産者と消費者をつなげる流通に重点を置き、流通、消費、生産の3本柱を有機的に結び付けるとしている。

なお、推進計画の効果としては、以下の期待をしている。

農産物に対する信頼感、安心感

流通体制の充実による環境対策、新鮮な農産物の購入

食育の推進と地域農産物への愛着の醸成

さらに、計画の推進に当たって、目標値を設定し、実績及び効果等について検証を継続している。

**[ 考察 ]**

地産地食推進計画は、農業経営を安定させるため、農産物に関する流通、消費及び生産を有機的に連携させるとしている。

なお、同計画の推進に当たっては、目標数値を定め、実績及び効果等について検証を継続するとしている。

長野市では、農業振興条例の規定により振興計画を策定しているが、計画の策定に当たって検討すべき内容であると考えている。

		<p><b>【現地視察：農ライフ創生センターについて】</b></p> <p><b>【概要】</b></p> <p>農ライフ創生センターは、農業の担い手養成及び多様な農業従事への支援策の一環として施設整備されている。</p> <p>同センターの目的は、「人的資源（定年退職者等）と土地資源（遊休農地）の融合を目指して」としており、平成16年に開設されている。</p> <p>なお、同センターの他に3つの研修所を有している。</p> <p>また、運営主体は、豊田市とあいち豊田農協となっている。</p> <p>受講者の就農状況は、受講修了人員 414人に対して就農者数は、330人となっており、就農率は、約80%となっている。</p> <p>なお、女性の受講率は、26%程度である。</p> <p>若い人の受講希望者は少ないことが課題となっている。</p> <p><b>【考察】</b></p> <p>農ライフ創生センターは、平成16年から稼働しているが、農業に関して興味のある皆さんの研修の場として有効に運営されている。</p> <p>長野市においても、松代地籍に「農業研修センター」の建設が予定されている。</p> <p>農業に関して意欲のある方、興味を持っている方等が多数参画してくれるよう施策の展開を期待したい。</p> <p>長野市農業が、多数の農業後継者によりもつかる農業、攻めの農業の実現に向けて、着実に進むことを願いたい。</p>
--	--	--